

伸びてきた腕にお父のほうを向いたまま四つん這いにさせられ、背後から腰骨を掴まれる。

「あっ♡……あああああ……っ！♡♡♡」

尻の間に熱いものを番わされ、ずぶずぶずぶ……っ♡と一気にそれが沈みこんできた。

先程精を注がれた孔に、苦もなくそれは入り込んでくる。

驚いた内壁がうねり、狂おしく新たな雄茎に絡みつく。

「ほら、俺たちに可愛がってもらってるところ、見てもらおうな」

「あ…っ♡あ……っ♡♡…いや…あ……っ！♡」

お父の脚の間で這わされたまま、後ろから大きな抜き挿しを開始される。

雄茎は大きすぎて、往復のたびに少年の躰までつられて前後する。

そうやって烈しく揺さぶられるさまを、目の前のお父に見られているのが言い表しようもなくいたたまれない。

「あ…っ♡♡あぐ……っ！♡」